

2026 年 2 月 9 日

千代田化工建設株式会社
総務部 IR・広報・サステナビリティ推進セクション

2026 年 3 月期 第3四半期決算 説明会 質疑応答要旨

2月6日に開催致しました2026年3月期 第3四半期決算説明会(オンライン)において、出席者の皆様から頂いた主なご質問と弊社の回答を以下にまとめております。

| # | 質問 | 回答 |
|---|---|---|
| 1 | 第 4 半期の見通し | |
| | 4Q 単独の粗利率は 8.7%になるかと思うが、GPX を中心とした引き上げ影響は第 3 四半期で計上済みで、第 4 四半期は見込んでいないか。 | <ul style="list-style-type: none"> 4Q において特殊要因は見込んでいない。4Q の完成工事総利益率は 8.7%としているが、巡航速度に対しては大きく低下するものではない。案件の進捗により、エンジニアの稼働率がやや低下しており、利益率を押し下げる要因として織り込んでいる。 |
| | 来期以降も粗利率 10%が目安となるか。 | <ul style="list-style-type: none"> 中計でも利益率 10%以上を目標としており、本利益率は維持していく。 |
| 2 | 受注額規模 | |
| | 中計に基づき海外案件の取り組み方を改革されていると認識しているが、今後も 1Q における海外案件の受注額 1,000 億円弱が一つの規模感の目安となるか。 | <ul style="list-style-type: none"> 自己資本が 1,000 億円台に復帰しているものの、優先株の償還を果たす必要があり、まだ体力回復は途上であることから、特に海外のランプサム契約については、そのような規模感となる。 |
| 3 | 海外案件への取り組み方針 | |
| | 今後の受注は 3,000～3,500 億円が目線で、国内中心とのことだが、海外案件に対する方針はどうか。 | <ul style="list-style-type: none"> この 3 年間では国内が増えていく想定だが、海外案件については中期計画期間中に取り組み改革を行ったのち、体力の増加に伴って加速していきたい。 カタル NFW にも取り組んでいく意向であるものの、今までのように数千億円～1 兆円という案件をランプサムで取るということについては考えていない。 |

この資料には、本資料発表時における将来に関する見通しおよび計画に基づく予測が含まれています。経済情勢の変動等に伴うリスクや不確定要因により、予測が実際の業績と異なる可能性があり、予想の達成、および将来の業績を保証するものではありません。従いまして、この 業績見通し のみに依拠して投資判断を下すことはお控えください。よろしくお願いいたします。